

## 5 学生の受け入れ

### 進捗状況報告

1. 他大学・大学院の学生に対する十分な「門戸開放」については、前期課程では、他大学出身者より内部出身者の在籍者数の方がまだ多い状況にある（2006年度入学生では内部10名・外部3名、2007年度入学生では内部8名・外部3名）が、「門戸開放」は徐々に進んでいる。2. 学生募集方法、入学者選抜方法の質的向上、各種入学者選抜方法の検証、「飛び入学」の制度の活性化、社会人学生の積極的な受け入れ、収容定員に対する在籍学生数の比率の向上と学生確保のための措置の工夫については、2004年度の法科大学院設置後に法学研究科前期課程への進学者数が減少し収容定員を充たしていない状況にあり、学内外からの進学者確保のために、大学院修了者の進路その他の基礎データの整備を急ぐとともに、現在は、公共政策プログラムのパンフレット配布に限られている、法学研究科独自の学内外への広報のあり方や各種入学者選抜方法等の検討を進めていく。その一環として、2006年度入試より法科大学院からの後期課程への進学者の確保に適切な選抜方法に改めたところである。

### 学内第三者評価

数は少ないが、前期課程においては他大学からの入学生もあり、学生確保に努力していることは評価できる。ただし、充足率は前期課程（定員45人）が2004年度から2007年度まで0.42、0.67、0.29、0.24と減少しており、抜本的な対応が求められる。

なお、特別委員から以下の意見があった。  
・ロースクールとの差別化を考慮したうえで、目標とする育成すべき人材像に応じた入試方法、広報のあり方の検討が期待される。